

その「物語」の物語。

“ペログリ”的複眼思考の味わい vol.140

田中 康夫



たなかやすお ● 56年東京生まれ、作家。'09年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選。'09年に衆議院議員に当選、1期務める。『文藝』（河出書房新社）2013年冬季号から17年ぶりに小説の連載を開始。【公式ブログ】<http://www.nippon-dream.com/>



意味合いが真逆に交差した言い回しは、枚挙に遑がありません。押っ取り刀。流れに棹さず。鳥肌が立つ。まさに日本語は「やはい」状況に陥っています。では「下町」は如何に？ こちらは具象名詞ならぬ抽象名詞であるが故に、遙か昔から厄介極まりない状態が続いています。台地の山手に対する低地の下町。この定義に従えば、現在の住居表示に於ける港区の白金台は概ね前者、白金は概ね後者。町工場と商店街が連なる白金ブリキ通りを思

い浮かべれば得心します。が、千代田区の麹町並びに番町は、と問われれば正直、返答に窮します。狭い範囲に台地と低地が複雑に絡み合う地形だからです。更には何れも低地なれど、浅草や深川に加えて日本橋や京橋をも下町と捉えるのは何故、と違和感を抱く向きも多いでしょう。然りとて、セーヌ川が流れるパリに倣って隅田川の右岸・左岸で山手と下町と呼称を徹底し定型的な三元解法を行政機関が提示したなら、南千住が山手で北千住が下

町とは謂われなき「差別」と甲論乙駁が展開されそぞです。江戸時代の「性愛事情」を記した物本で、神田の商家に嫁ぐも夜の営みに無聊を託す若妻が隣近の目を避けて、現在の三田や麻布に当たる赤羽橋や古川橋近辺の「下町」へ遠征し、自由恋愛の「俄街娼」として立立ち上り、つてな記述に遭遇すると益々、頭の中は混乱を来してしまいます。「谷根千」と最近では一纏めに呼ばれる谷中・根津・千駄木も同様。日本武尊が創祀と伝わる根津神社

前には私娼が集う岡場所が明治21年まで存在したのですから。が、麻布十番を扱った稿でも言及の如く江戸改め東京の「強み」は、坂の上の御屋敷と坂の下の商店街が同じ町内に存在したが故に点としての共同体の分子運動が活発化したと捉えるべき。それは、明治以前は浜辺の寒村だった「阪神間」に出現した、浜っ側から山っ側へ道路や線路の線を越えること街並みが変化する単調な階層社会との大きな違いです。千駄木の「菊見せんべい」は、谷中へと続く三崎坂の入口に暖簾を掲げて今年で139年。森鷗外夏目漱石、二葉亭四迷、江戸川乱歩の作品にも登場する団子坂とは不忍通りを挟んで反対側です。醤油煎餅8枚に白の砂糖煎餅と緑の抹茶煎餅が各3枚入った、真四角な形状の三色袋入り煎餅（830円）が人気を集めます。加えて、その名も珍しき「めずらし煎餅」（560円）も忘れずに粉砂糖をまぶした小さな楕円形の逸品。昔から原稿に呻吟すると、袋を開けるも余りの旨さに手が止まらず、更に原稿が滞る、僕にとつては禁断の御茶請けです。首振坂とも呼ばれる緩やかな三崎坂を進んだ先のいせ辰で江戸千代紙のポチ袋を買い求めるのと併せて、僕が学生時代から通い詰めるのが、東京名代と包装紙に記す菊

「山手」と「下町」が混在した、江戸改め東京の“強み”とは

今週の逸品



三色せんべい&めずらし煎餅

33年前の「なんくり」でも団子坂の隣外記念館を記述し、千代紙と煎餅も登場。星霜を経て「食ペログ」なるサイトにはこの他の煎餅も紹介されているが何故か絶品のめずらし煎餅への言及は見当たらず。海外に出掛ける際には料理店でのチップ入れにポチ袋を、在外友人への土産に三色とめずらしが僕の必需品。板場で遠戚が営むベーカリーから届く各種調理パンも隠れた逸品。

【菊見せんべい総本店】東京都文京区千駄木3-37-16 ☎03-3821-1215 営10:00~19:00 月曜定休

illustration by Hajime Anzai

